



椿 寿

シルバー 寒河江

第 62 号

発行 寒河江市中央 2 丁目 2 番 1 号
寒河江市総合福祉保健センター 3F
(公社)寒河江市シルバー人材センター
電話 83—3224
FAX 83—3203



シルバー人材センターでは、1月20日から22日までフローラSAGAEで「さがえシルバーフェア 2017」を開催し、3日間で1003人の多くの方々よりご来場いただきました。フェアでは、会員の作品展示の他、シルバー人材センターのPRコーナー、今回が初めてのチャリティバザーや折り紙、ペットボトルキャップ工作等の体験コーナーが設けられました。作品に見入る人や体験コーナーで真剣に作品作りに挑戦する人等にぎやかに開催しました。

今年の安全就業標語が決定

[山形県シルバー人材センター連合会]

最優秀 慣れるほど 初心にかえれ 安全就業

佐 藤 忠 幾

[寒河江市シルバー人材センター]

最優秀 緊張感 慣れた時こそ 魔がひそむ

佐 藤 純 男

優 秀 一瞬の 気のゆるみが 事故のもと

大 沼 富 子

優 秀 ボンヤリ作業 ボンヤリ運転 事故まねく

土 田 稔

新年のあいさつ

理事長 鹿間 康



新年あけましておめでとうございます。

市民の皆様には、日ごろ、当センターの事業に対し、ご支援を賜り厚く御礼申しあげます。また、会員の皆様には、清々しい新年をお迎えのこととお喜び申しあげます。

平成28年度は、シルバー事業が法制化されて30年の節目に当たります。

元東京大学総長の大河内一男先生が提唱された事業は「自主・自立、共働・共助」のもと、高齢社会を生きる術として発展してまいりました。昭和61年「高齢者等の雇用の安定に関する法律」（高齢法）が施行され、「国及び地方公共団体は、定年退職者その他の福祉の増進に資するため（中略）就業の機会の確保のために必要な措置を講ずるよう努めるものとする。」とされています。当時、高齢者は60歳以上となっていました。年明けのニュースを見ると高齢者は75歳以上とするよう言われているようであります。

このことにより、私達にもいろいろな影響があると思われませんが、「仕事があれば生きられる」「生きていれば、仕事ができる。」をモットーに、生きがいのある元気な高齢者を目指したいと考えております。

お陰様で、市、企業、市民の多くの皆様からの支えがあつて事業も順調に推移しております。今年も、魅力ある楽しいシルバー人材センターづくりに努めてまいる所存でありますので、今後とも更なるご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

結びに、新しい年が皆様にとりまして素晴らしい年でありますよう、心よりご祈念申しあげ、新年のご挨拶といたします。



理事長から市長へ門松贈呈です
市役所の正面玄関を飾りました

理 理 事 常 副 理
事 事 務 理 事
局 長 長
鈴 菅 犬 土 鹿
木 藤 飼 田 間
恵 義 一
子 幸 好 稔 康

謹賀新年
本年もよろしく
お願いいたします

監 監 理 理 理 理 理 理
事 事 事 事 事 事 事
木 高 土 佐 大 清 山 塩 小
村 津 田 藤 谷 水 田 谷 林
栄 敏 勝 健 博 啓 智 文
隆 彦 之 良 吾 之 一 恵 子 義

新年のごあいさつ

市長 佐藤 洋樹



明けましておめでとうございます。皆様には、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

貴センターにおかれましては、高齢者の皆様に日常生活に密着した就業機会を提供いただいております。働くことを通して健康維持と生きがいを得ておられ、また社会参加をすることにより、活力ある地域社会づくりが進んでおります。心から感謝と敬意を表するものであります。

さて、少子高齢化とそれに伴う人口減少社会の到来により、これまで以上に、生活のために働く高齢者が多くなるといわれております。一方、生きがいや社会参加を目的に就労する高齢者も多く、社会を支える高齢者の拠点として、貴センターの果たす役割は増々重要になるものと思っております。市としましても、第6次寒河江市振興計画で、高齢者の社会参加の促進を介護予防の重要な施策としておりますので、会員の皆様からご活躍いただければ、支援に引き続き努め、活力ある地域社会の実現をめざしてまいります所存であります。

結びに、貴センターの益々のご発展と会員皆様のご多幸とご健勝をご祈念申しあげ、新年のごあいさつといたします。

年頭のごあいさつ

市議会議員 國井 輝明



明けましておめでとうございます。輝かしい新春を健やかにお迎えのこととお慶び申し上げます。

超高齢化社会を迎え、高齢者の健康の確保、収入の確保、生きがいの確保など高齢者が生涯現役として活躍できる環境の整備が重要となってきています。

このような中、貴センターでは中期計画に基づき、会員の確保と就業機会の拡大を推進され、平成27年度の契約額が初めて2億円を達成されるなどその素晴らしい活動実績には目をみはるものがあります。

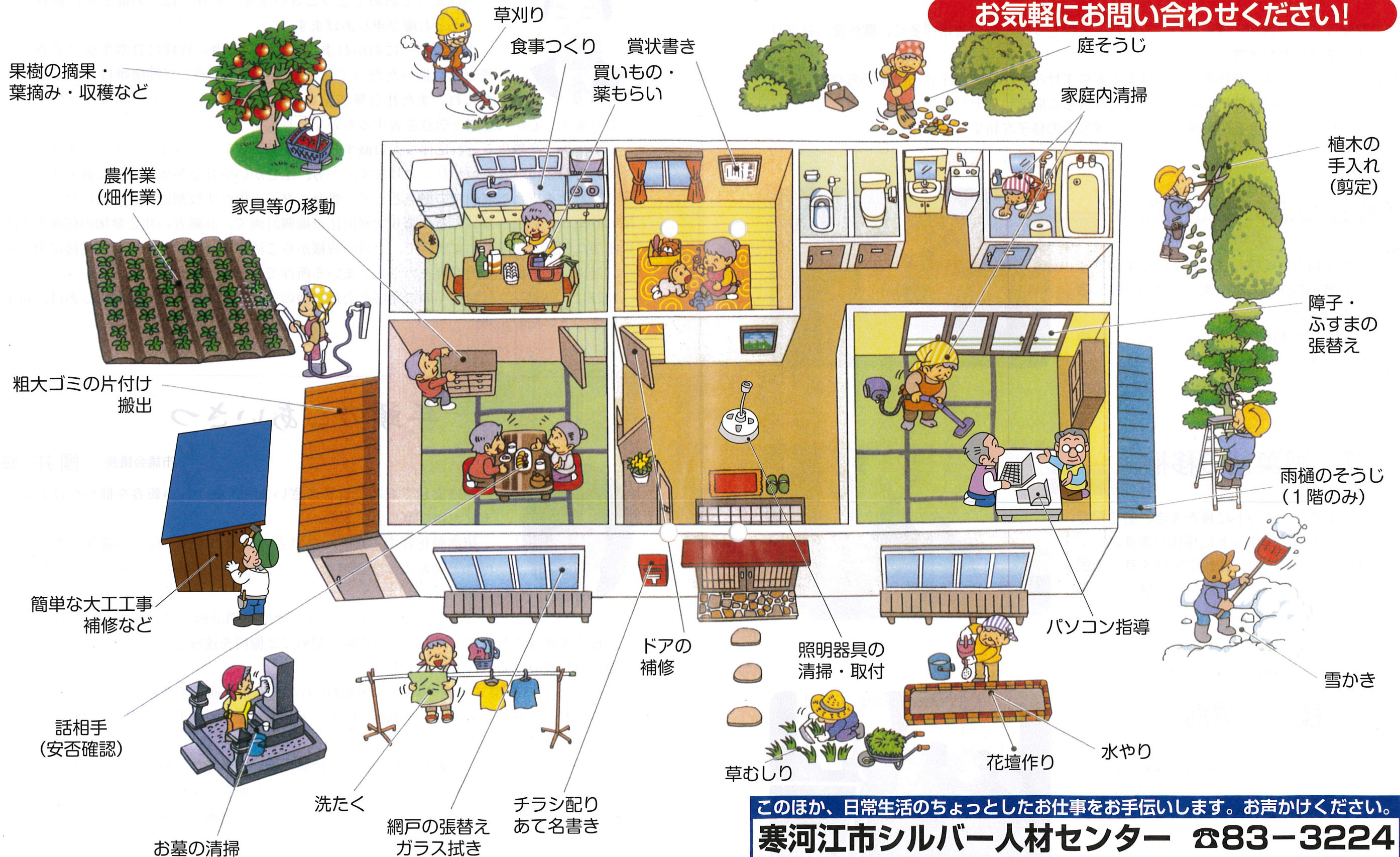
また、「自主・自立・共働・共助」の理念のもと、就業を通じて高齢者の健康維持や社会参加に寄与され、地域社会の活性化や福祉の向上に大きく貢献されておりますことに心より感謝と敬意を表する次第であります。

市議会としましても、高齢者福祉の向上と地域社会の活性化に一層の努力を重ね、安心して暮らしやすいまちづくりのため、これからも尽力してまいります所存です。

結びに、貴センターのますますのご発展と会員皆様のご健勝とご多幸をご祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

ご家庭の様々なお仕事を お引き受けいたします

お気軽にお問い合わせください!



このほか、日常生活のちょっとしたお仕事をお手伝いします。お声かけください。

寒河江市シルバー人材センター ☎83-3224

寒河江の農業をお手伝い

現在の農業は耕作面積が大きくなり、シルバー人材センターへの依頼が多く、農作業に就業する会員が年々増えております。

会社勤めだった会員は、農作業の経験は多くありません。仕事を発注する農家の方々の希望に応じられるよう、会員の技能向上のため講習会を数多く開催しております。

シルバー人材センター会員の農業への就業や講習会の様子を特集しました。

さくらんぼの剪定枝集め

寒河江市特産物のさくらんぼの剪定と枝集めです。さくらんぼの最初の作業になります。加温ハウスの中は、ポカポカ陽気。

収穫は、5月の連休後で、その後、選別、箱詰めの作業と続きます。



花、野菜苗の移植

苗作りの作業です。ポットに種をまき、ある程度大きくなったら大きめのポットに移植します。

5月の連休の頃出荷され、店頭に並びます。市民の皆さんが家庭菜園で作る花、野菜の苗は、このようにして作られます。



枝豆の選別

転作田で生産された枝豆は、機械で収穫されて農協の選果場に運ばれます。ベルトコンベアにのせられた枝豆はゴミと葉、枝が除かれ、水洗いされ袋に詰められ商品になります。



農作業の依頼に応える講習会

摘 果

収穫時の果実の形や大きさをそろえるため、余分な実を落とす大切な作業です。

どれを除き、どれを残すか、熟練を要する作業なので、講習は毎年行っております。



さくらんぼの技能向上

園芸試験場でさくらんぼ技能講習会です。摘果、葉摘み、脚立の設置方法や脚立上での安全な作業の仕方等の講習です。



箱 詰 め

さくらんぼ収穫と並んで最も就業依頼が多い「箱詰め」の作業です。着色具合や大きさ等を見極め箱に詰めます。この一連の作業が価格に影響します。

これも熟練を要するもので、講習会を毎年行っております。



葉 摘

リンゴの葉摘み作業は、果実の着色をそろえるため果実周りの葉を取り除く作業ですが、葉摘みの加減が難しいです。





庭木手入れで生きがいと健康づくり

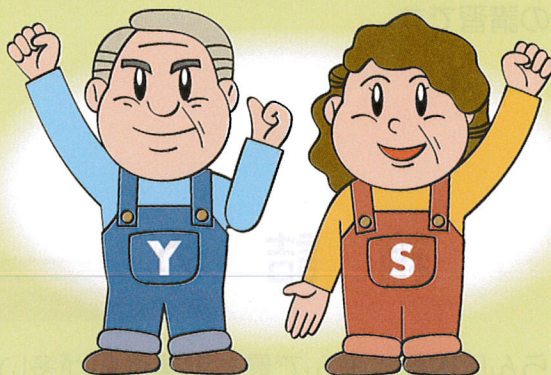
南部 鈴木 新助

私が、シルバー人材センターに入会したのは、昨年 8 月の暑いころでした。これまで、約半世紀近く飲食の仕事に携わってきました。今年、同窓生と古希を祝った際、第二の人生を送っているのが大半でした。私もこの機会に、これからの充実した人生をと心に決め、自分の趣味の盆栽を活かした仕事がしたく、樹木に関する庭木の手入れを第一希望に、シルバー人材センターに申し込みました。お陰様で、良きベテラン先輩の指導をいただいて、庭木の剪定、樹木の刈込等々教えていただき感謝しています。また、お客様の庭木の整枝、剪定完成の時は、庭の樹を見ると生き生きさが体に伝わってきます。仕事を終わった後の安堵感と達成感で何とも言えない自分になることができます。身体と精神が共に良くなってくるのがわかり、仕事をするのが楽しくなってきました。また、初冬の 11 月からは先輩方と前に剪定でお世話になったお客様の庭木の状況を見ながら、雪囲いの仕事ことができました。今年も、健康に留意しながら頑張りたいと思っております。

会 員 募 集

入 会 資 格

- 原則60歳以上の方
- 健康で働く意欲のある方
- 寒河江市内にお住まいの方
- 入会説明を受け、申込書を提出した方
(理事会の入会承認が必要です)



詳しくはお電話ください

☎83-3224

編 集 後 記

最近、農作物の移植、収穫、加工等農家からの仕事の依頼が多くなってきております。特に、果樹関係に集中しているのが現状です。そのため、果樹の摘花、摘果、葉摘み、さくらんぼの箱詰め等様々な講習を行い対応しております。また、ご家庭の様々なお仕事もお引き受けしています。

多くの皆様のご依頼を心よりお待ちしております。本年もどうぞよろしくお願い致します。

編集委員

塩 谷 智恵子／清 水 博 之／鹿 間

康／土 田 敏 之